

新中間処理施設整備基本構想（原案）住民説明会の開催概要

1. 目的

新中間処理施設整備基本構想（原案）の策定にあたり、新施設で共同処理を予定している市町村の住民の方々を対象に直接基本的な考え方を説明し、施設整備への理解を深めていただくことを目的として住民説明会を開催いたしました。

2. 開催日時・会場・参加者数

開催日	時間	会場	参加者数
令和元年12月22日(日)	14:00～	木野コミュニティセンター	54名
令和元年12月25日(水)	19:00～	帯広市役所	84名
令和2年1月14日(火)	19:00～	足寄町民センター	77名
令和2年1月15日(水)	19:00～	清水町文化センター	50名
令和2年1月16日(木)	19:00～	大樹町経済センター	43名
令和2年1月17日(金)	19:00～	池田町西部地域コミュニティセンター	26名

3. ご意見等の取扱いについて

ご発言いただいた内容についてはご意見等として伺い、今後の施設整備の参考とさせていただきます。

4. 住民説明会におけるご意見等の要旨

住民説明会でいただいた主なご意見等について、その要旨を基本構想（原案）の章ごとにまとめました。

【第1章 新中間処理施設整備基本構想策定の趣旨】

項目	住民からのご意見等	
1. 施設の分散について	①	広尾町からくりりんセンターまでの距離が90kmであるのに対して、えりも町の清掃センターまでは44kmである。また、陸別町からくりりんセンターまで距離が99kmもあるのに対して、上士幌の清掃工場までは66km、北見市クリーンセンターまでは58kmである。運搬等にかかる排ガスの環境への影響を考えると、くりりんセンター以外の近隣施設との共同処理ということも考えられるのではないか。
	②	24時間連続稼働する大きな焼却炉を作らないとダイオキシンが発生するというのは昔の考え方で、今は連続稼働させない小さな炉でもダイオキシンが発生しないという話を聞いている。今は無理でも、将来は、各自治体で小さな施設を持つという考え方もあるのではないか。
	③	すべての市町村のごみを帯広まで運搬することに疑問がある。燃料や排気ガスによる地球温暖化や冬季の搬入時における気象状況等による影響、災害時の施設の停止などを考えると、複数に分散させるべきではないか。

	④	中間処理施設は、一つにまとめた方が効率的なのかもしれない。ごみ処理は、自治体の財政体力からすると、長い目で見たら非常に厳しい。住民にその負担がかかる。そういうことから、未加入の自治体もしっかりとこの問題を議論していかなければならないと思った。
2. 策定までの経過について	①	町村の担当者の会議と学識経験者の会議があるが、それぞれどのような意見が出されたのか。市町村ごとにごみの課題に違いがあるが、各市町村がどのような意見を出して、どのように賛成に至ったのか、その経過がわからない。
3. その他	①	平成8年に現施設がスタートしたが、この25年の中でどういったごみ行政、あるいは、環境問題に変化があったのか。

【第2章 ごみ処理の基本条件の設定】

項目	住民からのご意見等	
1. 処理量の削減について	①	現在持ち込まれている可燃ごみをベースに次の焼却炉の処理能力を算出されているが、投入されている物の中にさらにリサイクルに回せるものは本当はないのか。燃やす量が減れば、炉が小さくなるしコストも削減できる。リサイクル率を向上させるために焼却炉をつくる時に併せて考えていくことも必要ではないか。
	②	足寄町は、これまで27種に分別してきた。今は、埋め立てられてしまうごみが増えて、もったいないなという気がする。分別の住民負担が大変だというのが、住民はそんなことを考えない。何種類の分別でもやると思う。最初から分別する習慣があると苦にならない。
	③	一日の処理量が286トンと出ているが、ごみの資源化や減量することによって処理量が減れば当然建設コストも下がり、住民負担も減ることになるのではないか。
	④	ごみの資源化も分別も住民の協力がなければできない。時間をかけて、住民にも協力してもらい、ごみの減量化などを進めることで、焼却炉の方向性も決まってくると思う。
	⑤	生ごみは、ごみの全体量の3割なり4割を占めるのだろうと思うが、資源とすべきものは資源として徹底して利用する。十勝管内は農業地帯であり、できないことはないと思う。
	⑥	構成市町村に資源化に向けた努力を求めるような計画も持つべきではないか。生ごみのうちの半分は家庭の残滓だと思うので、それを肥料にするなど、環境に配慮することはできないか。
	⑦	焼却ごみを減らすということに努力した方がコストも低く抑えられるし、もっと住民参加型の形で対策がとれるのではないか。
	⑧	生ごみをディスポーザーにより下水道に流すことで、下水汚泥は増えるが、生ごみの減量化を図れるのではないか。
	⑨	3Rの取り組みについて、ごみを出さない、ごみを少なくしていく、そしてリサイクルしていく議論が必要ではないか。
	⑩	資料では、ここ8年程ごみの量が変わらないか、増えている。それぞれの市町村でこれ以上下げられないのか。
	⑪	生ごみを分別して堆肥化している自治体もある。環境都市として、そういう取り組みこそが地域の価値を高めるのではないか。

2. 推計方法について	①	基本構想（原案）2ページに各市町村のごみ排出量の実績が出ているが、トータルでは微増になっている。人口が減少していることを考えると、一人当たりの排出量は増えていることになる。各市町村は、ごみ減量に向けた取組みをしてきたのか。市町村ごとに排出量の目標値を設定した方が良いのではないかな。
	②	基本構想（原案）3ページのごみ排出量の推計について、市町村ごとの数字が示されている方が意見を出しやすい。ごみを減らすことについては、各市町村が減量計画というものを持っているので、それと対比したり、実績からどのように令和9年度まで推計していったのかを示してもらいたい。
3. 災害廃棄物について	①	災害廃棄物はどのような地震を想定しているのか。大きな地震がきたらくりりんセンターも壊れるのではないかな。それを9千トンも入れることにしているのが理解できない。災害廃棄物を燃やすことで膨大な施設になっているのではないかな。
4. その他	①	現施設の建設時は、6市町村だった。それから共同処理する町村が増えてきたが、もともとの規模が大きかったことが理由ではないかな。炉を止めないためにごみを入れ続けなくてはならないから、共同処理する町村を増やしたという実態があったのかな。
	②	基本構想（原案）3ページに人口が減少していくと書いてあるが、人口が増える場合の想定はしたのかな。
	③	ごみを捨てる権利もある。ごみ排出量の削減を見込むことは適切なのかな。

【第3章 ごみ処理方式の選定】

項目	住民からのご意見等	
1. リニューアル方式について	①	コストダウンするためにリニューアルすることで臭いがするとか、仮設のごみ置き場を作って、そこからごみが飛んでくるとか、周辺環境が悪化することは困る。災害のことも考えて、安全でしっかりしたもの、丈夫で先々も使えるもの、そして、住民のごみの出し方によってもう少しコストを下げる方法も考えるべきである。
	②	工事期間だけ、他の施設でごみを処理してもらおうか、ごみピットを増設すればいい。現施設の方が浸水の関係では安全であるし、施設の周囲を擁壁で囲えば対策できる。今の場所で改築することが一番安全ではないかな。
	③	ごみ処理量が増えたことによってリニューアル方式が不可能になったということだが、いつから不可能になったのかな。昨年4月に4町が共同処理に加わったが、それ以前ではリニューアルできたのではないかな。
	④	リニューアル方式にした方が建設費は抑えられるのではないかな。函館や名古屋はリニューアルで更新するのになぜリニューアル方式ができないのかな。
	⑤	リニューアルの課題として柱の移設などの工事費が必要になると書いてあるが、今と同じ3炉にすれば良いのではないかな。2炉で建設する必要はない。
	⑥	新施設が2炉で焼却する計画なら、3炉ある現施設でも2炉で焼却しながらリニューアル工事はできるのではないかな。

2. 分別について	①	ごみの減量化や分別は、住民の責任でやるべきことではなく、事業者の責任でやるべきことだと思う。一方的に住民にごみの減量化や分別の手間をかけさせるが、製品を買わないと経済も回らないわけだし、包装されていない製品なんて日本に売っていないので、全て住民の責任ですと押し付けるのは違うと思う。
	②	分別はなるべく簡素化にしてほしい。本来であれば全て分別してリサイクル出来ればいいのかもしれないが、高齢者や移住者にとってはものすごく負担になっており、私の町では、分別が厳しくて高齢者がついていけず、家の中がごみで溢れている。
	③	新しい施設になったときに分別方法は変わらないのか。
3. 焼却処理について	①	30年ストーカ式で処理してきて、これからまた30年ストーカ式で処理し続けるのか。ごみはできるだけ燃やさないことが大事である。
	②	他の自治体では、ごみを燃やさない取組みをしていたと思う。そういう研究をした上での今回の提案なのか。
4. その他	①	ストーカ炉には、現在バーチカル炉という縦型の方式がある。面積が少なくても設置でき、焼却灰も少ないと聞いている。最終処分場ももっと延命化できるし、時間をかけて現在の技術を取り入れることで、環境に優しく、ごみのリサイクルができる社会形成につなげることができるのではないかと。
	②	温室効果ガス発生量の数値はわかりづらいので、現在発生しているCO2の数値と比較して新施設で発生する予測数値を示してもらいたい。
	③	生ごみを焼却ではなく、資源として活用する方法を基本に考えるべきである。

【第4章 ごみ処理システム】

項目	住民からのご意見等	
1. ごみの資源化について	①	独自処理施設に書いてあるとおり、鹿追町はリサイクル及び資源化に努力し、地域住民としても分別に協力してきたが、それ以外の市町村でなぜ独自の処理施設ができないと判断に至ったのか。COP25もあったが、環境問題というのは今の時代に生きる者として将来の子供たちに残してはならない課題である。
	②	生ごみの処理について、十勝バイオマス産業都市構想というものを帯広市が打ち立てている。ごみも資源であり、それを使えばメタンガスが取れ、雇用を生み出せるとされているので、そういったことも検討すべきではないか。
	③	燃やすごみをどう処理していくかというところに視点があるが、ごみを燃やすだけではなく、どう環境に優しい十勝を作っていくのか、そういう視点も必要ではないか。そういうことに一部事務組合はイニシアチブを発揮していくべきだと思う。
	④	鹿追町のプラントや富良野市のペレットなどについてもう少し検討してもらいたい。ごみを燃やすのではなく、資源であるということを考えるべきである。

【第5章 建設候補地及び施設配置】

項目	住民からのご意見等	
1. 浸水想定について	①	<p>現施設の辺りは高台になっており、建設候補地の方が標高は低い。基本構想（原案）19ページを見ると、C地区の浸水想定は2mから5m、あるいは、5m以上となっている。施設だけ嵩上げしても、周辺の道路が冠水してしまったら搬入できなくなる。ハザードマップに基づいて作っていると思うが、わざわざ低いところに建設しなくてもいいのではないか。</p>
	②	<p>4年前の台風の時には、十勝川が増水して避難指示が出ている。河川が氾濫すると流れが変わり、そこにどんな構造物があっても押し流される。新得町では、JRの橋脚が流され、橋桁も流されている。清水町でもまだ復旧していないところがある。浸水が見込まれるから嵩上げしてというが、河川が氾濫したらかさ上げしても流される。然別川が十勝川に合流する場所に施設を造るべきではない。</p>
	③	<p>新聞報道によると、十勝川が大雨で洪水になった場合、流域で4千名以上の人が死亡するとされている。帯広市も地域防災対策基本計画を作っている。そこでは、洪水対策について優れた知見を有する学識経験者の意見を聞くようにとされており、組合も準ずるべきではないか。</p>
	④	<p>有識者会議の4人の学識経験者は、いずれも地質、気象、治水といった分野の知見を有していない。そういった中でのC地区を選定するというのはおかしいのではないか。</p>
	⑤	<p>浸水想定が変わっているのに、なぜ基本構想に反映させていないのか。</p>
	⑥	<p>合流点から1キロの範囲で支流の堤防が決壊し、バックウォーター現象が起きることも考えられる。</p>
2. パークゴルフ場の建設について	①	<p>リニューアル方式で3炉整備し、処理しきれないごみについては、パークゴルフ場に1炉建設して処理するというのが現実的ではないか。</p>
	②	<p>現くりりんセンターの隣のパークゴルフ場は、次の施設の建て替え用地として取得したのではないか。なぜC地区で建設するのか。</p>
	③	<p>パークゴルフ場の面積が5ha以下ならば、隣接する芽室町の土地を買って、そこを足せば良い。</p>

3. その他	①	建設候補地について中札内村は検討しなかったのか。中札内村の堆肥化施設の隣に焼却施設を建て、堆肥にできない残りのごみを焼却するというのはどうか。中札内で生ごみがあふれても更別にはリサイクルセンターがあって処理ができるのではないかな。
	②	焼却炉を使っていると何年かで耐用年数が過ぎ、そこで延命化することになるが、民間事業者の場合、よほど利益があがっていなければ新たに土地を購入して新設するようなことはしない。最小の投資で更新することを考えるべきである。
	③	新施設の候補地は霊園の前で、多くの車が入り出りする。ご先祖様が安らかに眠れないという意見も聞いている。土地の選定の考え方がおかしいのではないかな。
	④	帯広市に施設を建設すると、各町村から車が集中するので、交通安全の観点から見てどうなのか。
	⑤	令和3年に測量・地質調査とあるが、先に調査をしておくべきではないかな。
	⑥	今回の建て替えは、主要な設備を浸水域よりも高い位置に嵩上げするとしているが、どのくらいのお金がかかるのか。
	⑦	プラントメーカーの回答から候補地Cで大丈夫と判断したと伺ったが、何かあった時の責任はどかが担うのか。

【第6章 環境自主基準の設定】

項目	住民からのご意見等	
1. 自主基準の設定について	①	環境面では、ダイオキシンの対策は取られているが、それ以外はどうなのか。例えばヒ素など色々な重金属も温度を上げて焼却すれば気化しやすくなるので不安である。
	②	原案には聞いたこともないような有害物質が並んでいるが、これらを検査する体制はできているのか。

【第7章 事業計画】

項目	住民からのご意見等	
1. 現施設の延命化について	①	基本構想では、既存施設の改築計画も含めて検討されているのか。更新が必要になった経緯を示さずに事業費だけが示されているのではないかな。長寿命化計画を図った上で更新になるのではないかな。
	②	第8回の有識者会議の議事録では、一度建設すると30年から40年程度は使用すると書かれているのに、なぜ30年で更新しないとならないのか。
	③	30年で建て替えというのが国の指針と言っているが、なぜ30年なのか。くりりんセンターでは、3炉のうち1炉は休んでおり、メンテナンスで80日は休むのだから、もっと寿命は延びるのではないかな。
	④	耐震化を図れば何年まで使用できるのか。施設の建て替えについて新聞など報道機関を通して、住民に知らせるべきである。
	⑤	延命措置をしたと聞いたが、その後、もう施設の限界だと判断した理由はどのようなものか。
	⑥	現くりりんセンターは、まだ使えるのではないかな。
	⑦	現在の施設をさらに長寿命化して継続できないのか。

2. 概算事業費の積算について	①	施設建設費の金額が非常に不透明である。285 億円の根拠を知りたい。
	②	プラントメーカーのアンケートの最低価格ではなく、平均を出しておくべきではないか。
	③	元松阪市長の講演会で話を聞いたが、半額程度の金額で建設していた。そういう研究もすべきである。
	④	令和元年にプラントメーカーに問い合わせているが、9年後に建てるのであれば物価上昇も考えられるのではないか。
	⑤	事業費に土地代や高上げの費用、解体費は入っているのか。設計費は別途必要になるのか。
3. 構成市町村の負担について	①	組合負担額について記載されているが、何年かかって各自治体が負担するのか。
	②	各市町村の分担金がどのくらいになるのか明らかにしてほしい。
4. 住民負担について	①	今ごみ袋を買うと 10 リットルでいくらという金額になり、それが私たちの負担になる。私たちが知りたいのは、新施設の建設に必要な 285 億円のうち組合の負担額が 125 億円となった場合、住民負担が上がるのか、下がるのかということだ。
	②	事業費は 285 億円で、組合負担額が 125 億円ということだが、資材も高騰するし、施設の維持費も加わることになるので、住民負担額はさらに多いはずだ。10 年、20 年施設を稼働させるとなると、住民負担額はどのくらいになるのか。
5. 解体について	①	解体費はいくらかかるのか。組合負担額の計算をしているが、解体費が入っていないのだから実際の負担額と違うのではないか。また、池田町のうめ～るセンターも数年でいっぱいになると聞いている。そういった費用も今後町村の負担になってくるのではないか。
	②	焼却炉は長年使っていると、ダイオキシンが炉の中や煙突などに付着すると聞いている。解体する時にそれが飛散する危険性もあるので慎重に検討すべきである。
6. その他	①	候補地 B は選定されていないので、この土地は売り払って組合の収入に変えて建設費 285 億円の一部に充てれば安くできるのではないか。
	②	建設費の内訳に記載のあるその他施設は何なのか。計量棟や管理棟などだと思うが、17 億 2 千万円はかなり高価な建物ではないのか。

【その他】

項目	住民からのご意見等	
1. 住民説明会について	①	12月20日に構想の発表があつて、何日も経たないうちに音更町と帯広市の2箇所で開催が決められ、その後、4箇所追加されたが、これで住民の理解を得たといえるのか。
	②	住民の声はどのように反映されるのか。住民合意が大切だと思うので、最終的に計画が固まる前に他の自治体でも説明会を開催すべきである。
	③	できればこういう会を何度か設けてもらいたい。今後どうしていきたいのかを聞かせてもらい、それについて私たちも意見を言いたい。
	④	説明会の開催について知らなかった人が多い。周知方法を工夫する必要があるのではないか。
2. パブリックコメントについて	①	現在公表されている資料だけですべて理解し、意見できると考えているのか。負担額等については後で示すとしているが、そういったものを示さないうちにパブリックコメントを終了するのか。